

# 実 技 試 験

☆☆☆解答に当たっての注意事項☆☆☆

- ・ 試験問題については、特に指示のない限り、平成27年10月1日現在施行の法令等に基づいて解答してください。なお、東日本大震災の被災者等に対する各種特例については考慮しないものとします。
- ・ 次の各問について答えを1つ選び、その番号を解答用紙にマークしてください。

【第1問】下記の（問1）、（問2）について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング業務を行うに当たっては、関連業法を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー（以下「FP」という）の行為に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 税理士資格を有していないFPが、確定申告書の作成について顧客から相談を受け、資料に基づき顧客の確定申告書を作成した。
2. 弁護士資格を有していないFPが、法律事務に関する業務依頼に備えるために、弁護士と顧問契約を締結した。
3. 生命保険募集人資格を有していないFPが、顧客から相談を受け、生命保険証券の見方について説明をした。

## 問2

下記は、井川家のキャッシュフロー表（一部抜粋）である。このキャッシュフロー表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果は万円未満を四捨五入すること。

＜井川家のキャッシュフロー表＞

（単位：万円）

経過年数			現在	1年	2年	3年
西暦（年）			2016	2017	2018	2019
平成（年）			28	29	30	31
家族・ 年齢	井川 浩司	本人	48歳	49歳	50歳	51歳
	久美子	妻	45歳	46歳	47歳	48歳
	翔	長男	14歳	15歳	16歳	17歳
	美南	長女	12歳	13歳	14歳	15歳
ライフイベント		変動率		美南 中学校入学	翔 高校入学	住宅の リフォーム
収入	給与収入（夫）	1%	532	537	543	548
	給与収入（妻）	—	96	96	96	96
	収入合計	—	628	633	639	644
支出	基本生活費	2%	249		(ア)	264
	住宅関連費	—	143	143	143	143
	教育費	—	120	150		160
	保険料	—	42	42	42	42
	一時的支出	—				200
	その他支出	—	25	25	25	25
	支出合計	—	579	614	609	834
年間収支	—	49	19	30	(イ)	
金融資産残高	1%	684	(ウ)			

※年齢は各年12月31日現在のものとし、平成28年を基準年とする。

※記載されている数値は正しいものとする。

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。

1. 空欄（ア）に入る数値とその求め方：「 $249 \times (1 + 0.02)^2 \approx 259$ 」
2. 空欄（イ）に入る数値とその求め方：「 $644 - 834 = \blacktriangle 190$ 」
3. 空欄（ウ）に入る数値とその求め方：「 $684 + 19 = 703$ 」

【第2問】下記の（問3）、（問4）について解答しなさい。

問3

高倉さんは、P X銀行（日本国内に本店のある普通銀行）に下記＜資料＞の預金を預け入れている。仮に、P X銀行が経営破たんした場合、預金保険制度により保護される元本（最大金額）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

＜資料＞

決済用預金	1,300万円
円定期預金	800万円
円普通預金（利息付き）	700万円
譲渡性預金	400万円

※高倉さんはP X銀行において借入れはない。

1. 決済用預金については、1,300万円が全額保護される。
2. 円定期預金および円普通預金（利息付き）については、合算して1,000万円までが保護される。
3. 譲渡性預金については、400万円が全額保護される。

問 4

下記<資料>に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、この企業の株価は1,500円であるものとし、購入時の手数料および税金は考慮しないこととする。

<資料>

年月【資本異動】	181,761	182,915	182,915	179,651	【株式】 $\frac{1}{100}$ 1,796,514千株 【負債】 $\frac{1}{100}$ 225 【財務】 $\langle 15.6 \rangle$ 前年 総資産 12,466,205 自己資本 4,232,256 自己資本比率 33.9% 資本金 341,482 利益剰余金 2,583,203 有利子負債 4,896,200 【指標等】 $\langle 15.3 \rangle$ ROE 7.7% $\uparrow$ 5.7% ROA 2.5% $\uparrow$ 1.9% 調整1株益 170.9円 最高純益(14.3) 350,093 設備投資 減価償却 研究開発 【キャッシュフロー】 営業CF 6,399(4,492) 投資CF $\Delta$ 3,863( $\Delta$ 6,598) 財務CF $\Delta$ 1,261( $\Delta$ 132) 現金同等物 14,007(12,263)	【株主】 $\text{株主} 298,998$ 名 $\langle 15.3 \rangle$ 万株 日本マスター信託口 12,227(6.8) 日本トラスティ信託口 8,628(4.8) 三井住友銀行 3,850(2.1) 日本生命保険 3,507(1.9) パークレイズ証券 2,500(1.3) 三井住友海上火災 2,472(1.3) バンク・オブ・ニューヨーク・メロンSANVIO 2,447(1.3) ステート・ストリート・バンク&トラスト505223 2,420(1.3) ステート・ストリート・バンク・オブ・ニューヨーク 2,280(1.2) 第一生命保険 2,044(1.1) $\langle$ 外国 $\rangle$ 30.5% $\langle$ 浮動株 $\rangle$ 12.5% $\langle$ 投信 $\rangle$ 5.1% $\langle$ 特定株 $\rangle$ 23.8% 【役員】 $\text{代表取締役社長}$ 飯島彰己(卸安永) 取締役 齋藤大介 木下雅之 安部慎太郎 加藤広之 本坊吉博 鈴木慎 $\Rightarrow$ 欄外 【連結】米国三井物産	【特色】三菱商事と並ぶ総合商社の雄。鉄鉱石、原油の生産権益量は断トツ。インフラ、金属資源等にも強み。 【連結事業】鉄鋼製品3(9)、金属資源15(20)、機械インフラ8(12)、化学品16(9)、エネルギー18(44)、生活産業18(22)、他22(3) 【設立】1947.7 【上場】1949.5	8031 三井物産
東証 49~13	3180(07)	55(50)	1820(9)	1307(2)	【業績】(百万円) 営業収益 営業利益 税引前利益 純利益 1株益(円) 1株配(円) 【配当】 配当金(円) $\text{13.3}$ 4,911,609 254,603 314,098 307,926 168.7 43 13.3 21 $\text{14.3}$ 5,731,918 270,784 550,517 350,093 192.2 59 13.9 25 $\text{15.3}$ 5,404,930 190,270 431,827 306,490 171.0 64 14.3 34 $\text{16.3}$ 5,100,000 230,000 390,000 240,000 133.9 64 14.9 32 $\text{17.3}$ 5,300,000 250,000 410,000 280,000 156.2 64 15.3 32 $\text{14.9}$ 2,747,569 139,239 312,081 222,660 124.2 32 15.9 $\uparrow$ 32 $\text{15.9}$ 2,600,000 135,000 220,000 140,000 78.1 32 16.3 $\uparrow$ 32 $\text{14.4}$ 1,370,526 71,174 173,134 127,806 71.3 子配当利回り 4.26% $\text{15.4}$ 1,283,689 80,744 152,765 96,937 54.1 1株純資産(円) $\langle 15.6 \rangle$ 会16.3 $\uparrow$ .. .. 390,000 240,000 (15.58) 2,361 (2,287)	【本社】100-8631東京都千代田区丸の内1-1-3 日本生命丸の内ガーデンタワー ☎03-3285-1111 【事業所】(国内)大阪、名古屋、札幌、他 計12 (海外)ニューヨーク、他 計142 【従業員】 $\langle 15.3 \rangle$ 47,118名 単6,085名(42.4歳) 男1,361名 【証券】 $\text{市場}$ 野村、大和、日興、三菱Uモル 【銀行】三井住友、みずほ、三菱U、三井住友信、国際協力 【仕入先】- 【販売先】-		

(出所：東洋経済新報社「会社四季報」2015年第4集)

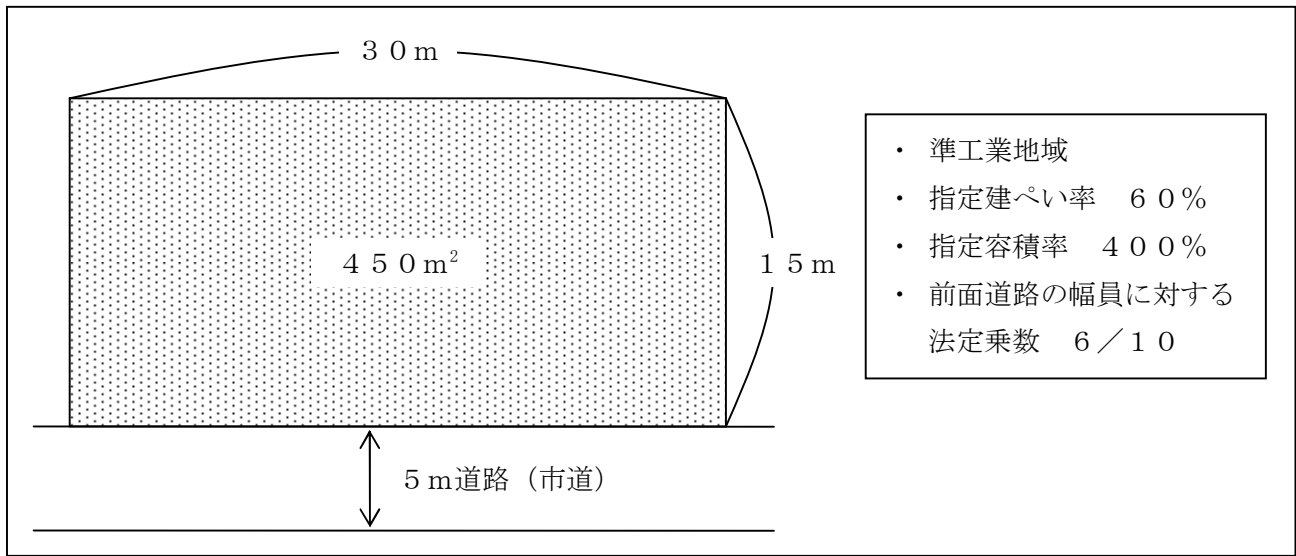
- 2016年3月期の決算見込み額における株価収益率(PER)を、この企業の同業種の平均的な株価収益率(PER)が10.0倍であるとした場合、これと比較すると、この企業の株価は割高といえる。
- この企業の株を2014年11月に購入し、2015年5月まで保有していた場合、所有期間に係る1株当たりの配当金額(税引前)は64円である。
- この企業の株を1単元購入するために必要な資金は15万円である。

【第3問】下記の（問5）、（問6）について解答しなさい。

問5

建築基準法に従い、下記<資料>の土地に建築物を建築する場合、この土地に対する建築物の建築面積の最高限度として、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

<資料>



1. 270 m<sup>2</sup>
2. 1,350 m<sup>2</sup>
3. 1,800 m<sup>2</sup>

### 問6

建物の登記記録の構成に関する下表の空欄（ア）にあてはまる語句として、誤っているものはどれか。  
なお、問題作成の都合上、表の一部を空欄（\*\*\*）としている。

<建物登記記録の構成>

表題部	***	
権利部	甲区	(ア)
	乙区	***

1. 抵当権設定登記
2. 所有権移転登記
3. 所有権保存登記

【第4問】下記の（問7）～（問9）について解答しなさい。

問7

中井一朗さんが加入している生命保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、一朗さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号 ○○△△××□□	定期保険特約付終身保険		
保険契約者 中井 一朗 様	中井 一朗 様 契約年齢 28歳（男性）	保険契約者印 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">                     中井                 </div>	◇契約日（保険期間の始期） 2009年8月1日
受取人 中井 美穂子 様（妻）	受取割合 10割	◇主契約の保険期間 終身  ◇主契約の保険料払込期間 60歳払込満了	

◆ご契約内容	◆お払い込みいただく合計保険料
終身保険金額（主契約保険金額） 300万円 定期保険特約保険金額 1,200万円 特定疾病保障定期保険特約保険金額 300万円 傷害特約保険金額 100万円 災害入院特約 [本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 疾病入院特約 [本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 不慮の事故や疾病により所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて手術給付金（入院給付金日額の10倍・20倍・40倍）を支払います。 ※妻の場合は、本人の給付金の6割の日額となります。 成人病入院特約 入院5日目から 日額5,000円 リビングニーズ特約	毎回 ××,×××円/月 [保険料払込方法（回数）] 団体月払い  ◇社員配当金支払方法 利息を付けて積立 ◇特約の払込期間および保険期間 10年

中井一朗さんが、平成28年中に交通事故で死亡（即死）した場合に支払われる死亡保険金は、合計（ア）である。


1. 1,900万円
2. 1,600万円
3. 1,500万円



問 8

東雅治さんが加入している医療保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、雅治さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険種類 医療保険（無配当）		保険証券記号番号 △△△-××××	
保険契約者	東 雅治 様	ご印鑑  	◆契約日 2010年10月1日 ◆主契約の保険期間 終身 ◆主契約の保険料払込期間 終身
被保険者	東 雅治 様 契約年齢 28歳 男性		
受取人	〔給付金受取人〕被保険者 様 〔死亡保険金受取人〕東 友里恵 様 * 保険契約者との続柄：妻		
<b>■ ご契約内容</b>			
給付金・保険金の内容	給付金額・保険金額		保険期間
入院給付金	日額 10,000円 * 病気やケガで1日以上継続入院のとき、入院開始日からその日を含めて1日目から支払います。 * 同一事由の1回の入院給付金支払い限度は60日、通算して1,000日となります。		終身
手術給付金	給付金額 入院給付金日額×10・20・40倍 * 所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて手術給付金（入院給付金日額の10倍・20倍・40倍）を支払います。		
死亡・高度障害保険金	保険金 1,000,000円 * 死亡または所定の高度障害となった場合に支払います。		
<b>■ 保険料の内容</b>		<b>■ その他付加されている特約・特則等</b>	
払込保険料合計 ×,×××円/月 払込方法（回数）：年12回 払定期月 ： 毎月		保険料口座振替特約 * 以下余白	

東雅治さんが、平成28年中に交通事故で大ケガを負い、給付倍率20倍の手術（1回）を受け連続して65日間入院した場合、支払われる給付金は、合計（ア）である。

1. 80万円
2. 85万円
3. 180万円

## 問9

自動車損害賠償保障法および自動車損害賠償責任保険（以下「自賠責保険」という）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 自動車損害賠償保障法では、自動車を運行するためには自賠責保険の契約が義務づけられており、原動機付自転車も対象である。
2. 自賠責保険では、自動車事故により他人に傷害を負わせた場合、傷害による損害に対して支払われる保険金の限度額は被害者1名につき100万円である。
3. 自賠責保険では、保険金の支払いは自動車事故で他人を死傷させた損害を対象としており、自動車の修理代などの物損は対象とならない。

【第5問】下記の（問10）、（問11）について解答しなさい。

問10

荒井幸一さんは、自分が所有している土地と建物を平成28年中に売却する予定である。荒井さんの土地と建物の売却に係る所得税の計算に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

- ・ 土地と建物の売却による所得は（ア）所得として（イ）課税の対象となる。
- ・ 土地と建物の（ア）所得の金額は原則として、「譲渡収入－（ウ）－譲渡費用」により計算する。

1. （ア）譲渡 （イ）総合 （ウ）取得費
2. （ア）不動産 （イ）総合 （ウ）必要経費
3. （ア）譲渡 （イ）分離 （ウ）取得費

問11

杉田佳宏さんは、妻と長女の3人で暮らしている。杉田さん家族の平成27年分の所得等が下記＜資料＞のとおりである場合、所得税に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる語句として、正しいものはどれか。

＜資料＞

氏名	続柄	年齢	平成27年分の所得	職業
杉田 佳宏	本人（世帯主）	42歳	給与所得1,200万円	会社員
和子	妻	40歳	給与所得38万円	パートタイマー
麻美	長女	17歳	所得なし	高校生

※平成27年12月31日時点のデータである。

※家族は全員、杉田佳宏さんと同居し、生計を一にしている。

※障害者または特別障害者に該当する者はいない。

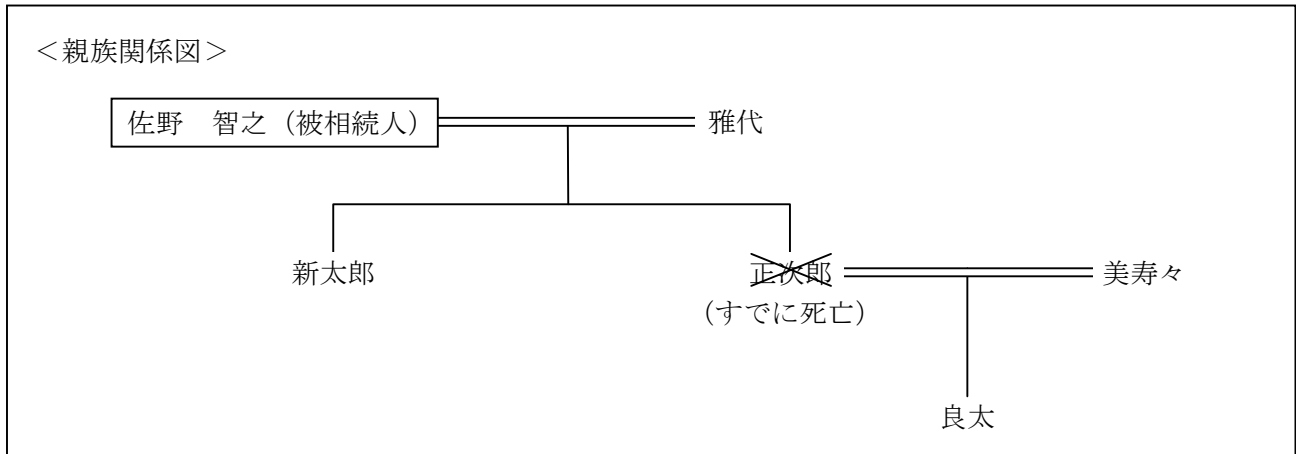
杉田佳宏さんの平成27年分の人的控除に係る所得控除額は、基礎控除38万円、（ア）を合計した金額である。

1. 配偶者控除38万円、扶養控除38万円
2. 配偶者控除38万円、扶養控除63万円
3. 配偶者特別控除38万円、扶養控除38万円

【第6問】下記の（問12）～（問14）について解答しなさい。

問12

平成28年5月2日に相続が開始された佐野智之さん（被相続人）の＜親族関係図＞が下記のとおりである場合、民法上の相続人および法定相続分の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。



1. 雅代 1/2      新太郎 1/2
2. 雅代 1/2      新太郎 1/4      良太 1/4
3. 雅代 2/3      新太郎 1/6      良太 1/6

問 13

倉田壮さん（23歳）が平成27年中に贈与を受けた財産は以下のとおりである。倉田さんの平成27年分の贈与税額として、正しいものはどれか。なお、平成27年中において、倉田さんはこれ以外には贈与を受けていないものとする。また、倉田さんは相続時精算課税制度を選択していないものとする。

- ・ 倉田さんの父からの贈与：現金120万円
- ・ 倉田さんの祖母からの贈与：現金150万円

<贈与税の速算表>

(イ) 20歳以上の者が直系尊属から贈与を受けた財産の場合

基礎控除後の課税価格		税率	控除額
200万円 以下		10%	—
200万円 超	400万円 以下	15%	10万円
400万円 超	600万円 以下	20%	30万円
600万円 超	1,000万円 以下	30%	90万円
1,000万円 超	1,500万円 以下	40%	190万円
1,500万円 超	3,000万円 以下	45%	265万円
3,000万円 超	4,500万円 以下	50%	415万円
4,500万円 超		55%	640万円

(ロ) 上記(イ)以外の場合

基礎控除後の課税価格		税率	控除額
200万円 以下		10%	—
200万円 超	300万円 以下	15%	10万円
300万円 超	400万円 以下	20%	25万円
400万円 超	600万円 以下	30%	65万円
600万円 超	1,000万円 以下	40%	125万円
1,000万円 超	1,500万円 以下	45%	175万円
1,500万円 超	3,000万円 以下	50%	250万円
3,000万円 超		55%	400万円

1. 16万円
2. 5万円
3. 1万円

問 1 4

下記<資料>の宅地（貸家建付地）について、路線価方式による相続税評価額（計算式を含む）として、正しいものはどれか。なお、奥行価格補正率は1.0である。また、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

<資料>

(普通住宅地区内)

30 m

20 m

600 m<sup>2</sup>

← 150 C →

[借地権割合]

記号	借地権割合
A	90%
B	80%
C	70%
D	60%
E	50%

※上記宅地の上に賃貸マンションを建築し、賃貸借契約により貸し付けている。  
 ※借家権割合は30%、賃貸割合は100%である。

1.  $(150 \text{ 千円} \times 1.0 \times 600 \text{ m}^2) \times (1 - 70\%) = 27,000 \text{ 千円}$
2.  $(150 \text{ 千円} \times 1.0 \times 600 \text{ m}^2) \times (1 - 30\%) = 63,000 \text{ 千円}$
3.  $(150 \text{ 千円} \times 1.0 \times 600 \text{ m}^2) \times (1 - 70\% \times 30\% \times 100\%) = 71,100 \text{ 千円}$



【第7問】下記の（問15）～（問20）について解答しなさい。

<設例>

小坂徹也さんは、株式会社T Aに勤める会社員である。徹也さんは、平成28年1月に第一子が生まれたこともあり、今後の生活設計についてFPで税理士でもある大場さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも平成28年4月1日現在のものである。

[家族構成（同居家族）]

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業
小坂 徹也	本人	昭和59年 8月20日	31歳	会社員
杏奈	妻	昭和60年11月11日	30歳	会社員（※）
結衣	長女	平成28年 1月19日	0歳	

※杏奈さんは、現在、育児休業取得中である。

[保有財産（時価）] (単位：万円)

金融資産	
普通預金	120
定期預金	250
財形住宅貯蓄	300
生命保険（解約返戻金相当額）	40

[負債]

なし

[マイホーム]

徹也さんは、定期預金250万円のうち200万円と、財形住宅貯蓄300万円の合計500万円を頭金とし、民間金融機関で2,000万円の住宅ローンを組んで、2,500万円のマンションを購入したいと考えている。

[その他]

上記以外については、各設問において特に指定のない限り一切考慮しないこととする。



### 問 1 5

F Pの大場さんは、小坂家の（マンション購入後の）バランスシートを作成した。下表の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、＜設例＞に記載のあるデータに基づいて解答することとし、＜設例＞に記載のないデータについては一切考慮しないこととする。

＜小坂家の（マンション購入後の）バランスシート＞

（単位：万円）

[資産]		[負債]	
金融資産		住宅ローン	×××
普通預金	×××		
定期預金	×××	負債合計	×××
財形住宅貯蓄	×××		
生命保険（解約返戻金相当額）	×××	[純資産]	(ア)
不動産（自宅マンション）	×××		
資産合計	×××	負債・純資産合計	×××

1. 210（万円）
2. 500（万円）
3. 710（万円）

### 問 1 6

徹也さんは、平成28年中にマンションを購入して、住宅借入金等特別控除（以下「住宅ローン控除」という）の適用を受けたいと考えており、住宅ローン控除についてF Pの大場さんに質問をした。所得税における住宅ローン控除に関する大場さんの次の説明のうち、最も不適切なものはどれか。なお、購入するマンションは、認定長期優良住宅等には該当しないものとする。

1. 「住宅ローン控除の額が所得税額より多く、住宅ローン控除額に残額が生じる場合には、翌年度の個人住民税から差し引くことができます。」
2. 「給与所得者の合計所得金額が3,000万円を超えると、その年以降、合計所得金額が3,000万円以下になったとしても、住宅ローン控除の適用を受けることができなくなります。」
3. 「住宅ローン控除の適用を受けるためには、借入金の償還期間は10年以上でなければなりません。」

### 問 17

徹也さんの父の貴之さんは、平成28年9月末に勤務先を定年退職する予定であり、定年退職時には退職一時金として2,300万円が支給される見込みである。この場合における貴之さんの所得税に係る退職所得の金額（計算式を含む）として、正しいものはどれか。なお、貴之さんの勤続年数は38年であるものとする。また、貴之さんは役員ではなく、障害者になったことに基因する退職ではないものとする。

<参考：退職所得控除額の求め方>

勤続年数	退職所得控除額
20年以下	勤続年数×40万円（最低80万円）
20年超	800万円+70万円×（勤続年数-20年）

1.  $2,300万円 - 2,060万円 \times 1/2 = 1,270万円$
2.  $2,300万円 - 2,060万円 = 240万円$
3.  $(2,300万円 - 2,060万円) \times 1/2 = 120万円$

### 問 18

徹也さんと杏奈さんは、今後15年間で積立貯蓄をして、長女の結衣さんの教育資金として250万円を準備したいと考えている。積立期間中に年利2%で複利運用できるものとした場合、250万円を準備するために必要な毎年の積立金額として、正しいものはどれか。なお、下記<資料>の3つの係数の中から最も適切な係数を選択して計算し、解答に当たっては、百円未満を四捨五入すること。また、税金や記載のない事項については一切考慮しないこととする。

<資料：係数早見表（年利2.0%）>

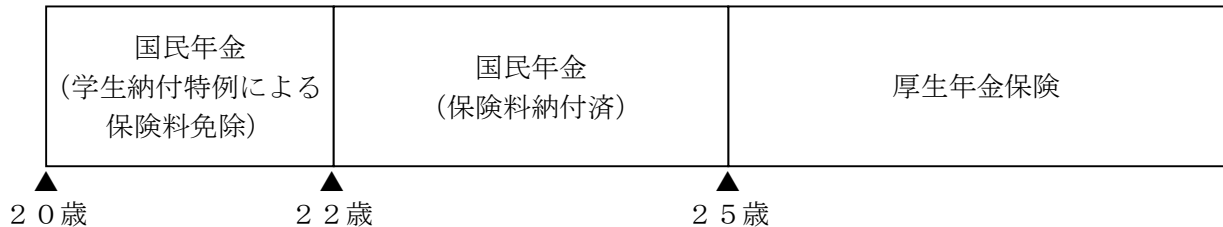
	現価係数	減債基金係数	資本回収係数
15年	0.74301	0.05783	0.07783

※記載されている数値は正しいものとする。

1. 123,800円
2. 144,600円
3. 194,600円

### 問 19

徹也さんの公的年金加入歴は下記のとおりである。仮に、徹也さんが現時点（31歳）で死亡した場合、徹也さんの死亡時点において妻の杏奈さんに支給される公的年金の遺族給付に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、徹也さんは、入社時（25歳で入社）から死亡時まで厚生年金保険に加入しているものとし、遺族給付における生計維持要件は満たされているものとする。



1. 遺族厚生年金が支給され、中高齢寡婦加算額が加算される。
2. 遺族厚生年金と寡婦年金が支給される。
3. 遺族基礎年金と遺族厚生年金が支給される。

### 問 20

杏奈さんは休業期間に係る社会保険料の免除について理解を深めておきたいと思い、FPの大場さんに質問をした。社会保険料の免除に関する次の説明のうち、最も適切なものはどれか。

1. 「私傷病休業期間中の社会保険料は、所定の要件を満たした場合、被保険者および事業主とも支払いを免除されます。」
2. 「介護休業期間中の社会保険料は、所定の要件を満たした場合、被保険者および事業主とも支払いを免除されます。」
3. 「育児休業期間中の社会保険料は、所定の要件を満たした場合、被保険者および事業主とも支払いを免除されます。」